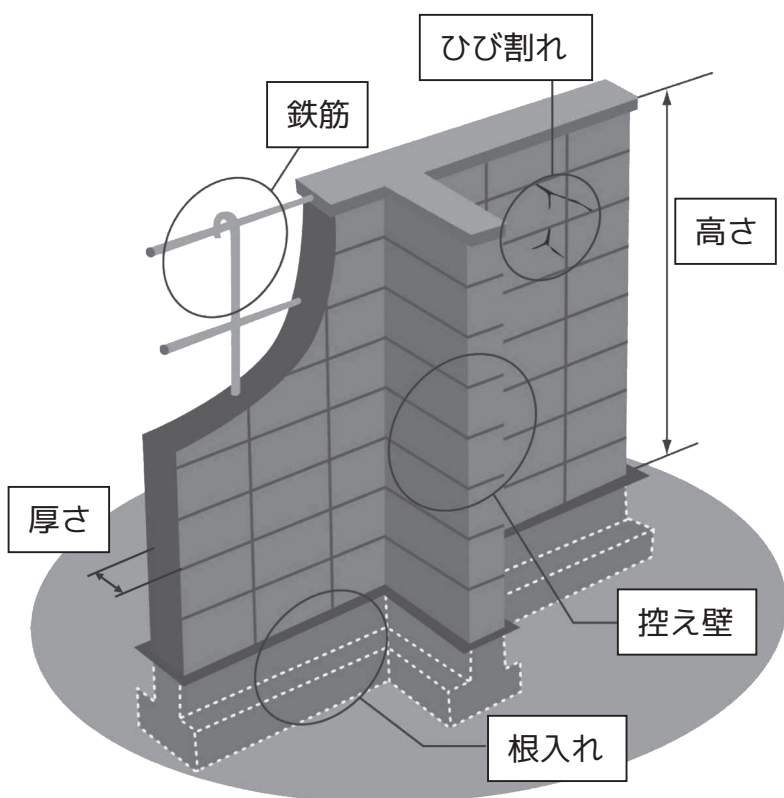


# ブロック塀の安全点検を しましょう！



平成 30 年 6 月 18 日に発生した大阪府北部を震源とした地震により、ブロック塀が倒壊し、通学中の小学生が亡くなるという痛ましい事故が起こりました。また、ブロック塀の倒壊により、住民の避難や救助活動の妨げになることも予想されます。そこで、自宅などに設置しているブロック塀について、以下の項目を点検してください。



出典:パンフレット「地震から我が家を守ろう」/日本建築防災協会(2013.1より一部改)

## 1

### 外観でチェック しましょう

- 1. 塀は高すぎないか  
▼塀の高さは地盤から 2.2 m 以下か。
- 2. 塀の厚さは十分か  
▼塀の厚さは 10 cm 以上か。  
(塀の高さが 2 m 超 2.2 m 以下の場合は 15 cm 以上)
- 3. 控え壁はあるか(塀の高さが 1.2 m 超の場合)  
▼塀の長さ 3.4 m 以下ごとに、高さの 1/5 以上突出した控え壁があるか。
- 4. 基礎があるか  
▼コンクリートの基礎があるか。
- 5. 塀は健全か  
▼塀に傾き、ひび割れはないか。

## 2

### 組積造（レンガ造、石造、鉄筋のない ブロック造）の塀の場合

- 1. 塀の高さは地盤から 1.2 m 以下か
- 2. 塀の厚さは十分か
- 3. 塀の長さ 4 m 以下ごとに、塀の厚さの 1.5 倍以上突出した控え壁があるか
- 4. 基礎があるか
- 5. 塀に傾き、ひび割れがないか

一つでも適合しない項目があった場合、または、不明な点があれば、役場総務課（電話 72-0331）までお問い合わせください。

# 獣害対策

お役立ち情報も。そこそこ教えて、木下チーフ!



## 最前線

vol. 7

### イメージと違う!? ざんねんなイノシシ

皆さんは、「ざんねんないきもの事典」という本をご存知でしょうか? 「アライグマは食べ物を洗わない」など、名前と見た目が違っていたり、変わった生態を持つ動物が紹介されていて、人気を博しているそうです。

今回紹介するのは、いわば「ざんねんなイノシシ」です。「イノシシ」猪が使われている言葉として、「猪突猛進」「猪武者」あたりがすぐに思いつくのではないのでしょうか。イノシシのことを知らない人なら、これらの言葉から「イノシシってこんな動物じゃないかな?」と想像してしまいます。

つまり、皆さんはイノシシに対して、「直情的」「凶暴」「攻撃的」「突進してくる」「強い」「激しい」「あまり賢くない」などのイメージがあるのではないのでしょうか。しかし、イノシシの「ざんねん」なところはココにあります。

日野町鳥獣被害対策協議会 実施隊チーフ  
木下卓也【問合せ】電話 72-1399

実際のイノシシは、「慎重」繊細「臆病」「安全第1」「学習能力が高い」動物です。しかも食事は、雑食性ですが、主に植物を主に食べているという、いわば「草食系」の動物です。山中などでバツタリ彼らと出くわしたら、あつという間に走って逃げてしまいます。

また、本来は「昼行性」なのに人間と出会わないよう、夜に行動するようになつたくらい臆病です。臆病だからこそ、慎重に状況を学習する能力が高いのかもしれませんが、そんなイノシシが掘りたくつて作物を食べて、おまけに糞をして帰つたという農地は、すっかり安全安心の場所と学習されているという事です。イノシシにとって不安になる農地にしておくことが被害対策の基本になります。

### 今月のCHECKポイント!

イメージと正反対! おく病でアタマの良いイノシシ

農地周りにゴミや放任果樹などのエサとなるものを除去し、しっかりと草を刈っておくことが大切です。

ドキドキ



だ、だれもいませよな?!



カナクソというものを存じだろうか。それは、山や川に転がっているのだが、いつのまにか見かけなくなってきた。カナクソは天然の鉱物だと思っている人も多いだろうが、たたらで作られる。

# たたら野

文= 伯耆国たたら頭影会 副会長 佐々木幸人

第5回 「かなくそ」 たたらマイスターが、あなたを奥目野たたらの世界に引き込みます。

不純物が冷えて固まった物がカナクソである。たたらは山に置き去りにしたり、道に敷いたりして始末した。それが現在もお残っているわけだ。

しかし、その厄介者が今では重要な遺物の指標となる。カマンカレホユクという遺跡では3800年前のカナクソが見つかった。

たたらは砂鉄を原料として鉄を作るのだが、その砂鉄から取り除かれた不純物が冷えて固まった物がカナクソである。たたらは山に置き去りにしたり、道に敷いたりして始末した。それが現在もお残っているわけだ。

特に、近藤家のたたら場では大鍛冶という鉄の加工場を併設したので、たたらのカナクソと鍛冶場のカナクソが同時に出現するのが特徴だ。舟場のたたら場では地面に埋まっていた大きな鍛冶滓を見つけたことがある。帽子のような丸い格好で地中に埋まっていた。こういったものを腕型鍛冶滓と呼び、そこに鍛冶炉があった物証になる。だから、こういったカナクソは基本的には移動させてはならない。ほかにカナクソにはたたら場の鉄分や泥が固まった再結合滓というものもあり、2メートルほどの再結合滓が菅沢ダム湖畔にも展示してある。大きくて立派なので驚くが、じつは鉄ではなく不純物なので見かけ倒しなのである。